

## 令和5年度 技術職員のための英語研修 in 浜松（オンサイト研修）

### 報告書

【開催日時】 令和6年2月28日（水） 10:00~16:00

【開催場所】 浜松医科大学／WEB（Zoom）

【講師】 梅村綾子（名古屋大学博物館 特任助教）

【参加対象者】 大学の技術職員、技術支援員（パート、派遣等含む）

【参加者】 オンサイト 8名 オンライン5名

【主催】 大学連携研究設備ネットワーク

【共催】 マテリアル先端リサーチインフラ、浜松医科大学 英語研修実行委員会

【協力】 国際マスイメージングセンター

【目的】 大学や研究機関でのグローバル化に伴い、技術職員が留学生や海外研究者の対応を行なう機会が増している。今回は浜松医科大学でのオンサイト研修（一部ハイブリッド）を通して、伝わる・伝える英語を学ぶ。

#### 【プログラム】

午前（ハイブリッド）

10:00~10:55 自己紹介&アイスブレイク

10:55~11:00 休憩

11:00~12:00 施設紹介プレゼンの練習

- ・国際マスイメージングセンターの紹介（センター長：瀬藤光利先生）
  - ・ワンポイント講座（施設の紹介をする際に役立つフレーズや、コツなど）

午後（オンサイトのみ）

13:00-14:15 移動&質量顕微鏡の説明（Md. Al Mamun 先生）、グループワーク

14:15-14:30 移動&休憩

14:30-15:45 廃棄物処理についての掲示板作成とロールプレイング

15:45-16:00 総括

#### 【報告】

今回は浜松医科大学でのオンサイト研修ということで、オンサイトのメリットや浜松医科大学の特色を活かしたプログラムを企画した。国際マスイメージングセンター瀬藤教授の協力を得ることができたため、外国人研究員による質量顕微鏡の装置説明のほか、今後技術職員も自身の施設を紹介する場面が増えることを想定し、英語での施設紹介を組み込んだ。研修タイトルには(オンサイト研修)と表記しているが、午前はオンラインを併用したハイブリッド方式で実施した。

研修はまず自己紹介と併せて今日の目標を発表することから始まり、各々が自分自身でゴール設定をすることで参加者の英語レベルによらずそれぞれの課題に向き合うことができていたと思う。また、本題に入る前にウォーミングアップとしてアイスブレイクを入れたことで、初対面の参加者同士もリラックスし活発に発言するためのベースができた。



施設紹介では英語でのプレゼンテーションを聞くだけでなく、実際に英語で説明する場面や対象についての具体的な事例を挙げて教えていただいたので、『伝える』ためのポイントやコツを学ぶことができた。

装置説明では装置室の都合もあり、座学での説明を受けた後、実機の見学と説明を受け、再度会議室に戻って質疑応答を行った。知識のない装置に関する説明は日本語で聞いても分からないことが多く、質問があがらないことが懸念されたため事前に質問のヒントを用意し、それを貼り出して参加者が見ながら質疑ができるよう工夫した。



廃棄物処理については当初の予定を少し変更し、掲示物作成のワークショップ形式で行った。2～3名の少人数グループに分かれて掲示物を作成した後、別グループの掲示物に関するコメントを交わし合った。

当日の運営は浜松医科大学技術職員の有志によって行った。スタッフ数は配信担当2～3名、会場設営・案内・受付・参加者対応その他雑務に2～4名。数だけみれば参加者数に対してやや多い感はあるが、バス停からの案内や休憩室の設営などで人手を要したことや突発的なトラブル発生時のことも考慮すれば適正な人数だったと思う。

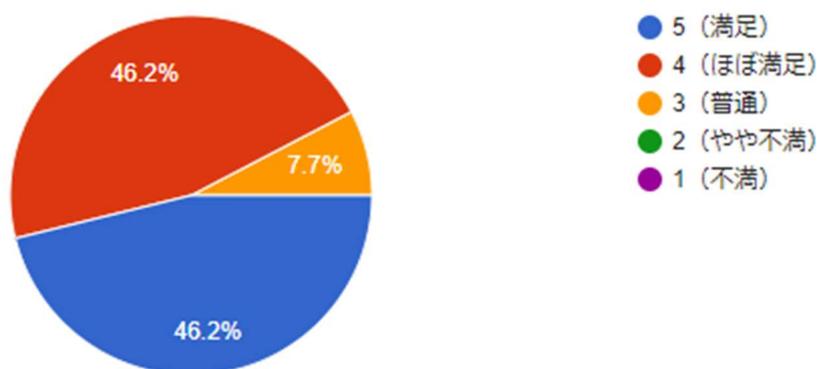
配信含め大きなトラブルもなく開催することができたが、運営や進行での不備や課題もあった。例えば、受付開始時間を記載していなかったためか、受付開始前に到着してしまった参加者がおり、開始1時間近く前までまだ準備をしている段階だったため対応にやや苦慮した。進行面では、時間通りに進行することができずに延長してしまっており予定されていた内容が十分に実施できなかったことが大きな反省点である。

運営実行サイドでの課題は残ったものの、参加者の視点では高い満足度が得られ、非常に好評であった。オンサイトということでオンラインよりも活発なやり取りができたり、他大学の職員との交流や施設見学などで英語の研修だけでなく技術職員として参考になる点が

あったなどの感想が寄せられた。特に施設紹介では資料の作り方のコツや相互理解の重要性についてのアドバイスが得られたため有意義だったという声が多く、どのように伝えたら伝わるのかを考えることができ、本研修の「伝える・伝わる英語」を学ぶという目的も達成することができたと思う。

## 【アンケート結果】

### 研修の満足度



### 研修の良かった点をご記入ください

- ・実際に外国人研究員の方と英語でコミュニケーションを取る機会があったこと
- ・オンライン研修より対面のほうが発言がしやすいと感じました。とても和やかな雰囲気を作ってくださっていたからだと思います。
- ・「Me too!」を探すグループセッションがおもしろかった
- ・英語を学ぶのと同時に医科大学に特有の装置や事情を知ることができて大変有意義な研修でした。
- ・午前中のプレゼンについて、施設紹介などの資料の作り方や相手に伝えるためにはどうしたらよいか、という点についても丁寧にレクチャーいただき、とても参考になりました。また、午後の装置見学もあつという間で、ポスターづくりも各班でまったく違うものができて、とても参考になりました。
- ・施設案内を想定した研修会は初めてだったので、施設紹介のスライドを使用する際の注意点を伺えたことは大変参考になりました
- ・オンサイトなので顔を合わせてじっくり取り組めたこと、英語以外の話題での交流もできたことがよかったと思います。

- ・実際にお会いして、オンラインではできない活発なやり取りを英語で行うことができた。また、さまざまな情報を得ることができた。特に瀬藤先生の留学生も英語がブロークンという話が大変有意義だった。
- ・実際に技術職員と現場を見ながら交流出来ました。経験豊富な教授のお話も勉強になります。
- ・オンサイト参加で、施設見学等できてよかったです。
- ・外国人研究者と一緒に働いている研究者の生の声がきけたこと
- ・英語を話す機会が全員にあるところ
- ・英語で説明する際に気をつけるポイントを知ることができた。

### 今回の研修はご自身の業務にどのように役立ちそうですか？

- ・留学生が英語ネイティブでないことの再確認が取れたので、少し楽な気持ちで留学生に対応できるかもしれない
- ・正確な文法で正しく話さなければ伝わらないのではないだろうか。という固定観念が和らぎ、話してみようというチャレンジする気持ちが持てるようになりました。研修をきっかけに、英語のスキルアップに関する意識が高まったことが、とてもよかったです。
- ・英語で自己紹介を練習する機会をもてたこと
- ・留学生対応での英会話に役立てます。特に「お互い英語が得意とは限らない」「相互理解が重要である」ことを念頭に置きたいと思います。(もちろん正確な文法で話せるようになることも目指します。)
- ・装置説明の資料やマニュアル、掲示物など幅広く応用できそうです。また、相手が英語が母国語ではない、という点を念頭に置くことを、忘れないようにしたいと思います。
- ・見学者の対応に役立ちそうです
- ・英語のプレゼン資料の作り方はとても参考になりました。
- ・今後資料を作る際、「説明しない図は載せない」「目の情報と耳の情報を一致させる」ことに気を付ける。相手も英語が母国語ではないのだということを意識する。また、プレゼンの際は英語といえども声色を明るくする。
- ・留学生、海外の研究者とのコミュニケーションが良くなります。
- ・英語を使つての業務への心構えができ、利用者さんへの対応に役立ちそうです。
- ・瀬藤先生の「本当に大切なのは英語力ではなく、相手を思いやる気持ちだ」というお話が心に残りました。
- ・自己紹介を簡潔にまとめる練習ができました
- ・今回学んだ経験を踏まえて、留学生の対応に活かしていきたい。

### 今回の研修の感想・改善点や、今後の技術英語研修に期待することなど

- ・装置紹介を英語で行うロールプレイなど、実際に英語を話す演習をより盛り込むこと

を希望します

- ・アイスブレイクのゲームは、皆さんのことを知ることが出来てとても良かったです。自己紹介の時に、「発表者への質問」するアクティビティがあると、よりお互いの事を知ることが出来て、英会話の練習になるのではと思いました。
  - ・後半の講演の中で、「英語スピーカーの部下をもつと英会話力がとても伸びる」という話題が印象的だった。英語を話すグループの中だけでなく、英語を話す必要性の強さが英会話力の向上につながるのだと実感した。いざ必要となったときのために、今回の機会のようなセミナーを活用していきたいと考えている。
  - ・外国人研究者による装置説明、装置見学、質疑応答のプログラムは特に学びが多く、これだけで1日かけてもいいような気がしました。今後もいろいろな大学でのオンサイト研修を楽しみにしています。
  - ・午後の装置見学はあっというまで時間が短いくらいでした。オンサイトならではのプログラムはとても刺激になります。今後も開催してほしいです。
- 個人的なことですが、お昼の後に講義で、どうしても眠気が襲ってきてしまって聞きそびれた部分があって残念でした。手を動かすほうが先のほうがいいかもしれません。
- ・配布資料を拝見してとても参考になったので資料に関する説明を伺う時間が合ったらよかったですと思います（現地参加された方にはあったかもしれませんが・・・）
  - ・なかなか上手く進行できずで予定していた内容ができなかったことが反省点であり改善点であり今後の自分の課題です。
  - ・今回の研修で、留学生対応や英語の勉強について有益な情報を得たり、技術職員同士の横のつながりを強めることができたりして大変良かった。最後の梅村先生からいただいた原稿を読むトレーニングについて、もう少し目的と、何に気を付けて読めばいいのか、どのようなコメントをしたらいいのか教えていただきたいかった。また、難しいとは思いますが、今回の Mamun 先生のように、実際に留学生一人に参加してもらって、プレゼンに対して意見をもらうなどの研修ができるとおもしろそうだった。今回は本当にありがとうございました。
  - ・一人で学習するよりも、皆さんと楽しく学べるのが良かったです。
  - ・関東、東北地区、九州や沖縄など全国区で展開できるといいと思います。
  - ・今回のように、研究者に協力頂くような研修は、技術職員のスキルアップだけでなく技術職員の取り組みを知ってもらう意味でも有意義だと思いました。
  - ・オンラインだと時間が短くてあっという間に感じました。楽しい学びでした。午前の施設紹介は留学生と接するときの重要な心構えを聞くことができ良かったです。
  - ・オンラインも同時開催ということで今回参加することができました。今後も実施していただけることを期待しています。